

## 28年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年8月1日～ 28年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 18.8	0.0	0.0
	ヒノキ	14.3	21.4	14.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	0.0	6.3	0.0
	ヒノキ	14.3	0.0	△ 7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 31.3	△ 6.3	△ 6.3
	ヒノキ	△ 7.1	0.0	7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びカラマツ原木の入荷は8月の減少が、9月、10月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して増加。トドマツは8月の横ばいが、9月、10月は増加。

・スギ原木の消費は8月の横ばいが、9月はやや増加し、10月は横ばい。ヒノキは8月の増加が、9月は横ばい、10月は減少。カラマツは8月、9月の減少から10月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して減少。ヒノキは8月の減少が、9月は横ばいとなり、10月は増加。カラマツは8月、9月の減少が10月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/8月	9月	10月
スギ	25.0	25.0	18.8
ヒノキ	14.3	△ 7.1	△ 7.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は強含みで推移。ヒノキは8月のやや強含みから9月、10月はやや弱含み。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## ' (原木荷動き)

・7月も天候不順で入荷状況は良くなかった。2ヵ月間の入荷不調で原木在庫は大きく減少。7月末まではパレットの受注で多忙であった(北海道)。  
・これからトドマツの夏伐採分が入荷予定。フル生産で原木消費約5,000m<sup>3</sup>/月。1ヵ月分の在庫、道内でも地域差があるように聞く(北海道)。  
・補助金が少なく出材減少(東北)。  
・夏季は入荷減。消費は横ばい。スギ、ヒノキ材は在庫減の方向(関東)。  
・ヒノキの製材を進めていくため、スギを減らしヒノキの仕入れを進める。ヒノキの製材を進めて行く。原木が傷む時期なのでスギの仕入れを減らしていく(関西)。  
・ヒノキは出材が増えて来た。秋口以降伐り時期が良くなって出材も増加する。スギは横ばい程度か。出材が増えた分ヒノキ消費量は増加。伐り時期の良い丸太を冬場に備え積み増ししたい(中国)。  
・ヒノキの入荷は8月減少、9月～10月は横ばい。消費は8月横ばい、9月～10月は状況によるがやや減少。8月～9月は在庫を増やしたくない(中国)。  
・盆過ぎより天候も回復、出材も増加する。新材への切り替えのため8月、9月は在庫を減少させる(九州)

## ''' (原木価格)

・トドマツの価格変動の要素は今のところなし(北海道)。  
・入荷減で原木は価格上昇(関東)。  
・当分変わらないと思う(関西)。  
・ヒノキ8月後半から下がると予想(中国)。  
・ヒノキは3m柱口を中心に横ばいだが、出材増につれ先安見込み。スギは弱含み(中国)。  
・出荷増加ではあるが、価格は横ばい(九州)。

## 28年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/8月	9月	10月
生産動向	スギ	0.0	6.3	6.3
	ヒノキ	14.3	28.6	14.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	25.0	31.3	18.8
	ヒノキ	21.4	35.7	21.4
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	ヒノキ	△ 35.7	△ 28.6	△ 28.6
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ製材品の生産は、総じて増加傾向にある。カラマツは8月、9月の減少が、10月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は、3ヵ月連続して増加。カラマツは8月の減少が、9月、10月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキ製材品の在庫は、3ヵ月連続して減少。カラマツは8月の減少が、9月、10月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	12.5	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 6.3	0.0	△ 6.3
	通し柱 12×6	10.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	△ 7.1
	間柱	0.0	0.0	△ 6.3
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	△ 10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	7.1	7.1	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	7.1	7.1	7.1
	土台角 12×4	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は、柱角KD10.5及び通し柱12.0が8月にやや強含みであるが、それ以外は総じて横ばいしないしやや弱含み。

・ヒノキの製材品の出荷価格は柱角KD10.5及び土台角10.5がやや強含みであるが、それ以外は3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・パレットは順調、ラミナは横ばい、間柱も横ばい。梱包は減少(北海道)。
- ・トドマツはフル生産。8月はお盆休みがあり多少生産は減る見込みだが、それ以外の要因はないので秋需がどれくらいあるか期待。生産分を販売しており在庫は横ばい(北海道)。
- ・生産は安定横ばい。販売好調で出荷増。在庫減の方向(関東)。
- ・ヒノキ製材品の在庫減のため、ヒノキ生産に集中、荷動きは堅調、在庫負担の重たいものを年内で調整(関西)。
- ・ヒノキの生産、出荷は8月やや減少、9月～10月は少し増える見込み。出荷の状況を見ながら在庫をコントロールする(中国)。
- ・受注生産に切り替えた。売り急ぎは避けている(中国)。
- ・ヒノキは入荷が増えた分生産量も増加。7月に比べラインを停める日が少なくなった(丸太不足で停めていた。需要が上向いて来た。9月一杯は出荷堅調の見込み(中国)。
- ・ヒノキ出荷がやや増加し出した。出荷増のため在庫がやや減少(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツのパレット、梱包用材向けは、円高による輸入材の値上がりや同業他社の値下げ販売で、ユーザーからの値下げ要請が出て入る(北海道)。
- ・トドマツサンギは秋需があっても横ばいが良いところ(北海道)。
- ・スギ製材品の売値は大手主導で変わらない(東北)。
- ・スギ原木は上昇だが、製品は横ばい(関東)。
- ・荷動きの悪いメーカーのスギ安値材もあるとの一部情報あり、年末にかけて小幅な下げは可能性あり。ヒノキは比較的引合い堅調、但し値上げまでの話には至らず(関西)。
- ・ヒノキは9月からやや上昇すると予想。集成材の生産状況も影響があると思われる(中国)。
- ・スギ、ヒノキ共10.5cm角は順調で価格も強含み。その他は変わらず。スギ間柱も品不足気味(特に45厚のもの)(中国)。
- ・スギ、ヒノキとも価格変動なし(中国)。
- ・ヒノキは低いところで横ばい(九州)。

## 28年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/8月	9月	10月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太及びラジータ丸太の仕入は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は8月の増加が、9月、10月は横ばい。ラジータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の在庫は8月の減少が、9月は横ばい、10月は再び減少。ラジータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/8月	9月	10月
米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は8月の弱含みが、9月、10月は横ばい。ラジータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

・ラジータ丸太は5～6月より多少需要が増えて来た様な気もするが、大勢に影響はない(中国)。

(原木価格動向)

・ラジータ丸太の価格は円高の影響で多少コストが下がると思う(中国)。

28年8月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	28/8月	9月	10月
生産			
米マツ製材品	50.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は8月の増加が、9月、10月は横ばい。ラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は8月の減少が、9月、10月は増加。ラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の在庫は8月の横ばいが、9月、10月は減少。ラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/8月	9月	10月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割	△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ平角の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。米マツ正角及び小割の出荷価格は8月の弱含みが、9月、10月は横ばい。

・NZ梱包材(割板・割角)は3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・ラジアータ製材品は5～6月より多少需要が増えて来た様な気もするが、大勢に影響はない(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・ラジアータ製材品の価格は変化ないと思う(中国)。